

10 / 27

Mon

研究者 佐藤広基 / シェリー・ユー (日義中学校)

共同研究者 直山木綿子
(関西外国語大学 英語キャリア学部 教授)

スピーチ(発表)活動を通して、 生徒の主体的な学びを引き出す 英語授業をめざして

直山木綿子先生にご指導いただき、今年で3年目となります。先生と共に授業を創り上げる中で、生徒たちが主体的に学ぶためには、「本物の目的・場面・状況」を設定することの重要性を強く実感してきました。今年度もこの考えを軸に、「より多くの外国人観光客に私たちのふるさと日義について知ってもらい、実際に訪れてもらう」ことを目標に掲げました。日義の魅力外国人観光客へ効果的に伝えるため、多角的なアプローチで活動を進めています。

これまでの活動と学び

4月：京都での実践とフィードバック

修学旅行で京都を訪れた際、生徒たちは自作した簡易パンフレットを手に、外国人観光客へ木曾の紹介を行いました。直接いただいたフィードバックは貴重なもので、日義の魅力を伝えるパンフレットにどのような情報が必要か、深く考えるきっかけとなりました。

6月：現地調査で深掘り

不足している情報を補うため、木曾福島の町へ繰り出し、外国人観光客や観光協会の方々へのインタビューを実施しました。これにより、外国人観光客が本当に求めている情報を具体的に把握することができました。

7月：パンフレット制作と磨き上げ

これまでの活動で得た知見をもとに、ふるさと日義のパンフレット作成に取り組みました。友だちとの活発な意見交換を通して、日義の魅力がより伝わるよう工夫を凝らしました。また、シェリー先生が日本に来て困った経験談から、「日義を訪れる外国人観光客が困らないように」という視点を取り入れることで、伝える内容にさらに磨きがかかりました。

「質問力」で高める表現力

直山先生からの「話し手を鍛えるためには、聞き手の質問力が大事である」というアドバイスを受け、現在は友だちが発表した内容に対して積極的に質問を投げかける活動に注力しています。この「質問する」プロセスを通して、パンフレットの内容をさらにブラッシュアップする取組を進めています。

目指す未来：日義の案内人として

最終的な目標は、生徒たちが自ら作成したパンフレットを手に、外国人観光客に積極的に話しかけ、日義の魅力を直接案内することです。



共同研究者 直山先生から

日義小中学校に寄せていただき、TTの在り方から一緒に授業改善に取り組み始めてから、今年で3年目になりました。授業者の佐藤先生とシェリー先生の熱意あふれる教材研究と学校全体でのバックアップで、「本物の目的・場面・状況」を設定した授業づくりが進められています。子どもたちが願いに向かって主体的に表現し、笑顔あふれる授業から、ともに学びましょう。



～日程～

- ① 受付 13:20～13:45
- ② 公開授業 13:55～14:45
- ③ 開会式 14:55～15:00
- ④ 研究発表、質疑・応答、感想等
15:00～15:20
- ⑤ 講演会 15:20～16:30
「言語活動を通して指導することの
具体」
- ⑥ 閉会式 16:40～16:50